

## 「美術教育」における観察による描画表現の可能性

### －「みてかく」授業の意義と、内容や方法－

東京藝術大学大学院美術研究科 美術専攻 芸術学研究領域  
美術教育 1315932 中村仁美

本研究は、小・中・高等学校の図画工作科・美術科における、観察による描画表現を題材として扱うことの可能性を、その活動の意義と、内容や方法について探ることで見出そうとする、制作論を基盤とした美術教育論である。

筆者は、11年間、公立小学校の普通学級で、全科を担当する担任を務めてきた。その後、東京藝術大学での制作実践を通して、ものやことから感じられるエネルギーを「みる」ことや、世界の一体感を感じることに価値を見出した。

本研究におけるエネルギーとは、「すべてのものやことから感じられる存在感」のようなものである。本研究では、筆者の制作実践から、エネルギーとはどのようなものかということ、概念的に掘り下げることを試み、研究の目的を補完する。

「美術教育」における観察による表現は、造形あそびの導入以降、減少の一途をたどる。観察による表現の題材が消えゆくことに疑問を感じたことが、本研究の動機である。アートが思考や行為そのものと化した現代における、観察による描画表現という営みの意義を再考する。

概念的に示した観察による描画表現の意義を、「美術教育」の現場で授業として成り立たせるため、実際の授業実践を例に、観察による描画表現の授業づくりの、具体的な内容と方法についても考察する。そして、それをもとに、「美術教育」の現場で授業実践を行い、観察による描画表現の意義と内容や方法を検証する。

結論として、本研究から考えられた、「美術教育」における観察による描画表現の意義には、まず、表現の悦びを基盤とし、自分軸を形成したり、イメージをもつ能力を育んだりすることがあげられる。その上に、あるがままの価値観や、統合的感覚の獲得、成り立ちの把握などの、多様な世界観の獲得を通して、人間がより豊かに生きるための資質を育むことが考えられる。

本研究の独自性は、筆者の制作実践から得られた価値の基準をもって、「美術教育」を再考し、筆者の観察による描画表現の授業実践をもって、「美術教育」に還元しようと試みていることである。その背景には、授業も、相互作用を内包したある種の表現であるとの考え方がある。

本研究は、子どもたちの学びを豊かにし、美術を専門とする教員はもちろん、美術を専門としない教員の「美術教育」への理解を助けることを目的としている。

本論文は、全7章、本論2部構成で展開している。

序章では、本研究に至った背景と、目的及び問いと方法、博士論文全体の構成、先行研究と、本研究における概念及び基本的前提について述べる。

第1部では、「観察による描画表現の意義とは何か」を問う。

第1章では、筆者の制作実践を通して、「多様な”みる”と表現の質に感じられるエネルギーの世界」について考察する。ここでは、観察による描画表現の先行研究や、作家の作品、筆者の作品制作過程から、多様な”みる”のあり方をとらえ、中でも、エネルギーを「みる」ことによりひらかれる世界観を掘り下げていく。

第2章では、第1章で見出された、エネルギーの世界を仮定し、「観察による描画表現の営みと意義」について考察する。”みる”、“見る”、「みる」ことに基づく、質の異なる観察による描画表現ごとに、その営みの意義を検討する。

第2部では、第1部で見出した「意義が活かされうる『美術教育』における授業の内容と方法とはどのようなものか」を問う。

第3章では、授業の内容と方法を考えるための基礎研究として、「観察による描画表現の変遷と内容や方法の課題」を探る。ここでは、教科書を手がかりに、「美術教育」における観察による描画表現の衰退の実態を、子どもたちの表現の質でとらえ、変遷の背景と、課題に迫る。

第4章では、第3章で見出された課題を克服すべく、「芸術教育としての『みてかく』授業の内容と方法」について考察する。具体的な授業実践事例から、外界へはたらきかけ、「自分軸」をもって真剣に突き詰める、芸術教育としての「みてかく」授業の内容と方法を検討する。

第5章では、筆者の教育実践である、「芸術表現としての『みてかく』授業への挑戦」を通して、「その内容と方法」を検証する。本研究では、授業も芸術表現になりうると考え、筆者の授業の手前をもとに、世界観を広げ、敬意と感謝の心を育む芸術表現としての「みてかく」授業を実践し、その構想と実際の授業結果から考察する。

結章では、第1部「観察による描画表現の意義とは何か」と、第2部「その意義が活かされうる『美術教育』における授業の内容と方法とはどのようなものか」という、2つの大きな問いについての結論をまとめ、『美術教育』における観察による描画表現には、どのような可能性があるか」を見出したい。

以上の検討・考察を通して、「『みてかく』授業の意義と、内容や方法」から考えられる、『美術教育』における観察による描画表現の可能性」について述べる。